

## STEP 5 警戒レベル・気象情報（気象庁）・避難情報（市）を確認

大雨や台風が近づくと気象庁や市が警戒情報を発信します。警戒レベルに合わせ、その時にどのような備えが必要か確認しましょう。ハザードマップ16ページを参考にしてください。

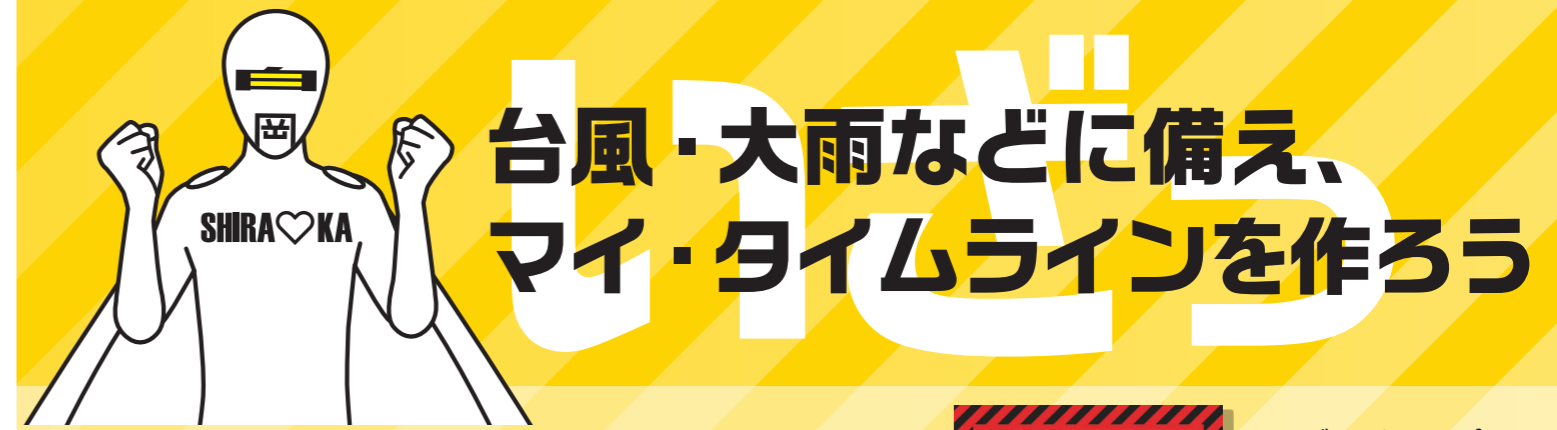
時間	水位情報	警戒レベル/気象情報(気象庁)/避難情報(市)	主な備え
3時	台風が発生 水防団待機水位 水防団が出動するための待機する水位	LEVEL 1 ○台風情報(※随時発表) ○早期注意情報	○テレビやインターネットで天気予報を確認 ○家族全員の今後の予定を確認 ○防災グッズの確認(不足していれば購入) ○1週間以上の薬を病院に受け取りに行く
2時	氾濫注意水位 河川の氾濫の発生を注意する水位	LEVEL 2 ●大雨・洪水注意情報 ●氾濫注意情報	○家の周りに風で飛ばされそうなものがないか確認 ○燃料等を確認 ○万が一に備え、親戚、知人に相談または避難開始 ○ハザードマップで避難場所、避難経路を確認 ○通行止め情報がないか確認 ○携帯電話等を充電 ○避難に時間がかかる場合は避難準備 ○インターネットで川の水位を調べる
1時	避難判断水位 洪水による被害の発生を特に警戒する水位	LEVEL 3 ●大雨・洪水警報 ●氾濫警戒情報 高齢者等避難発令! 避難開始の目安になります	○市ホームページや安心安全メールなどで避難所開設情報を確認 ○近所の人に災害情報を伝え、助けが必要か確認 ○持ち出し品の準備再確認 ○テレビやインターネットで気象、水位情報を再確認 ○安全なところへ移動開始
0時	氾濫危険水位 洪水氾濫により家屋浸水等の被害が生ずるおそれがある水位	LEVEL 4 ●土砂災害警戒情報 ●氾濫危険情報 避難指示発令! 緊急通報メール	○危険な場所から全員避難 ○市ホームページ、安心安全メール、SNSで避難情報を確認
0時	氾濫が発生	LEVEL 5 ●氾濫発生情報 緊急安全確保発令! 緊急通報メール	○命を守る最善の行動をとろう

**警戒レベル1**  
災害への心構えを高める必要があります。最新の防災気象情報などの情報収集はどのようにするか、備蓄品の確保などの確認をしましょう。

**警戒レベル2**  
避難行動の確認が必要です。避難をする際の持ち物や、どのような経路で避難場所へ行くか確認をしましょう。

**警戒レベル3**  
高齢者などは避難し、それ以外のかたも避難準備や自主避難が必要です。周囲の高齢者などの避難方法を確認し、安全な所へ移動しましょう。

**警戒レベル4**  
誰もが避難するタイミングです。市が開設している避難所を確認して避難しましょう。



避難（行動）の準備はできていますか？  
何を用意し、いつ、どこへ避難すればよいでしょうか。  
近年、台風やゲリラ豪雨などの大雨による大規模災害が発生し、日頃の備えが大変重要となっています。  
新しくなったハザードマップに掲載した「マイ・タイムライン」を活用して、あなただけの避難行動を整理してみましょう。  
また、過去の浸水被害を確認し、避難経路を把握しましょう。



※ハザードマップは市役所(安心安全課)、市公式ホームページで入手できます。



## STEP 6 STEP 1～5で確認したことを参考にマイ・タイムラインとして書き出す

ハザードマップ17ページに直接記入しましょう。

自分だけのマイ・タイムラインを作成するためにSTEP1～5で確認したこととハザードマップ16ページの主な備えを参考に、避難行動を書き出しましょう。記入例にある通り、ご自身の生活環境に合わせ、具体的に書き出すことでいざという時に冷静な避難行動がとれます。

警戒レベルに合わせて、どのような状況が想定され、その時に困ること、必要となるもの、「なに」をすればよいか考えてみましょう。

また、高齢者や乳幼児がいる世帯など、避難に時間がかかるような場合などの事情を踏まえ、「いつ、どのタイミングで避難をするのか」決めておきましょう。

ハザードマップは、利根川水系や荒川、中川流域内の河川が氾濫した場合を想定しています。これらの河川を管理する河川事務所では、避難するタイミングを判断するための水位を公表しています。令和4年4月、利根川上流河川事務所は利根川(栗橋観測所)の避難判断水位、氾濫危険水位を次のとおり見直しています。水位の見直しに当たっては、令和元年東日本台風で発生した洪水後、最新の測量成果などを用いて、流下能力を計算し、基準水位を評価しています。

記入例	マイ・タイムライン																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビやインターネットで今後の台風や前線の動きを確認する。</li> <li>家族の今後の予定を確認する。</li> <li>備蓄品を確認する。</li> <li>浸水想定区域に住んでいる場合は避難所へ連絡する。</li> <li>ベランダの植木鉢や物干し竿などを室内に取り込む。</li> <li>車の燃料を満タンにする。</li> <li>持ち出し品をまとめておく。</li> <li>(現金、通帳、印鑑、重要な書類など)</li> <li>インターネットで河川の水位、上流での大雨情報に関する情報を調べる。</li> <li>隣居の友人宅に避難させてもらえるか確認する。</li> <li>隣の1人暮らしのおばあちゃんに声をかける。</li> <li>スマホ、モバイルバッテリーを充電する。</li> </ul>	<p>いつ、どんな行動をとったらいいか考えて書き込んでみよう!</p>																		
<p>避難行動に係る河川水位</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>河川名(基準観測所)</th> <th>水防団待機水位</th> <th>氾濫注意水位</th> <th>避難判断水位</th> <th>氾濫危険水位</th> <th>水位河川情報</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利根川(栗橋観測所)</td> <td>2.70m</td> <td>5.00m</td> <td>7.60 6.90m</td> <td>9.20 8.80m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>荒川(熊谷観測所)</td> <td>3.00m</td> <td>3.50m</td> <td>5.00m</td> <td>5.50m</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※中川流域に関する基準観測所は、利根川(栗橋観測所)を参照してください。</p>	河川名(基準観測所)	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位	水位河川情報	利根川(栗橋観測所)	2.70m	5.00m	7.60 6.90m	9.20 8.80m		荒川(熊谷観測所)	3.00m	3.50m	5.00m	5.50m		
河川名(基準観測所)	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位	水位河川情報														
利根川(栗橋観測所)	2.70m	5.00m	7.60 6.90m	9.20 8.80m															
荒川(熊谷観測所)	3.00m	3.50m	5.00m	5.50m															

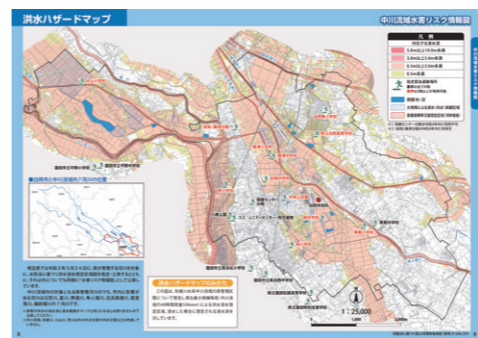
## マイ・タイムラインとは

マイ・タイムラインとは、自分がとるべき災害行動を時系列に整理し、水害時に避難が必要なタイミングを判断するための方法の1つで、台風の接近などによって河川の水位が上昇する時に「いつ何をすればいいの」「どこに避難するか」など一人一人がとる防災行動を整理する計画表です。

## マイ・タイムラインを作ってみましょう

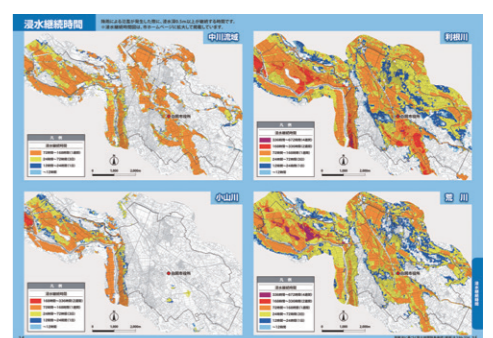
### STEP 1 お住まいの場所の水害リスクを確認

自分が住んでいる場所のリスクを確認しましょう。ハザードマップ8～13ページを参考にしてください。



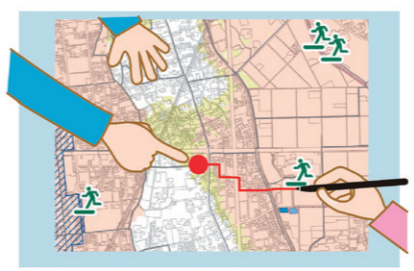
### STEP 2 浸水が引くまでの想定時間を確認

屋内安全確保(垂直避難)で身を守れても、その後、長時間の浸水により生活や企業活動に支障が出ます。避難所へ行くか、長時間避難できる備えをしましょう。ハザードマップ14～15ページを参考にしてください。



### STEP 3 避難先・避難経路を確認

自分が避難する場所までの距離や安全な経路、他の候補となる経路を確認しましょう。ハザードマップ8～13ページを参考にしてください。



### STEP 4 避難経路を歩いて確認

避難経路を実際に歩いて、大雨のときに水が溜るような場所、ブロック塀など倒壊のおそれがないか確認しましょう。

